

1. 再処理工場

再処理工場については、原子力規制委員会による審査の状況を踏まえ、新規制基準への適合に必要な工事案件及び工事期間を検討してきたところ、一定の見通しがついたことから、しゅん工時期を変更する。

(1) 主な工事案件

▶ 緊急時対策所の新設

既存の緊急時対策所は、新潟県中越沖地震の対応として新規制基準施行前に建設したものである。重大事故重畳の初動対応を考慮すると、対応要員の活動性向上や資機材等の拡充のためには、既存の緊急時対策所（約200人規模）の広さをさらに倍程度確保することが必要であり、新規制基準へ適合するためには新たに緊急時対策所を設置することが合理的と判断した。設置にあたっては耐震性向上のため地下に岩着させることとした。

▶ 貯水槽（重大事故対応の水源）の新設

既存の貯水槽（約20,000 m³）は、新規制基準施行前に建設した設備であるため、地下に岩着していない。重大事故対応として高レベル廃液を冷却するなどの水源とするためには十分な耐震性を確保することが必要であり、新規制基準へ適合するためには、新たに地下に岩着させた貯水槽（既存の倍程度）を設置することが合理的と判断した。

▶ 耐震BCクラス配管等の補強工事の物量増加

耐震BCクラス配管等の補強工事は、内部溢水等に対する防護対象設備が多くなったことから、工事物量が増えた。

(2) しゅん工時期

- ▶ 緊急時対策所および貯水槽の新設は、今後2年半程度の期間を要す見通しである。
- ▶ また、耐震BCクラス配管等の補強工事も同程度の期間を要す見通しである。
- ▶ 以上を踏まえ、今後の工事については、安全を大前提とした工事の合理化・短縮化に努めるが、一方、審査およびそれに続く設工認等の手続きが必要であることから、新たなしゅん工時期を2018年度上期とした。

2. MOX燃料工場

MOX燃料工場についても、原子力規制委員会による審査の状況を踏まえ、新規制基準への適合には工事計画に影響する設計変更等が必要と判断したことから、しゅん工時期を変更する。

(1) 主な設計変更案件

▶ グローブボックスの耐震Sクラス化

耐震設計の強化として、MOXを粉末の状態で取り扱うグローブボックス*に

ついて、耐震クラスをBクラスからSクラスとする。

▶ 防火ダンパ等の新規設置

火災防護対策の強化として、火災伝播を防護するため、換気排気ダクトには防火ダンパを、連結するグローブボックスの連結部には防火シャッタを新規に適切な位置に設置する。

* ステンレス製の枠組み、透明なパネルおよびゴム製のグローブから構成される気密性のある箱型の設備。グローブを介してボックス内のMOX粉末等を安全に取り扱うことができる。

(2) しゅん工時期

- ▶ MOX燃料工場は、建設の初期段階であり、現在実施中の建屋建築工事に加え、上記設計変更等を含む設備工事を実施していく必要がある。これらの工事等に今後3年半程度の期間を要す見通しである。
- ▶ 以上を踏まえ、今後の工事については、再処理工場と同様に安全を大前提とした工事の合理化・短縮化に努めるが、一方、審査およびそれに続く設工認等の手続きが必要であることから、新たなしゅん工時期を2019年度上期とした。

3. 今後の取り組み

再処理工場およびMOX燃料工場について、今後の原子力規制委員会による審査およびそれに続く設工認等の手続きを着実に進めるとともに、安全を第一に現場の工事を進め、一日も早いしゅん工に向けて、全社をあげて取り組んでいく。

以上

【参考：再処理工場の新しい計画】

